

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業 研究経過／終了報告書／成果報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 国立精神・神経医療研究センター病院

申請者 平林 直次

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて行う研究について、

継続中につき、経過を報告します。

終了したので、結果を報告します（終了後の成果報告の予定 あり なし）。

終了後に成果を公表したので、報告します。

申請 番号	MTSA-008	研究 課題名	動的因子を含む変数群による医療観察法対象者の類型化に関する研究
研究結果（経過）： 入院データベースに登録されている診療データのうち、2017年7月から2022年6月までに入院処遇が決定した全対象者の入院月および以後6ヶ月ごと、ならびに退院月または2022年6月（在院中の対象者）の年齢、対象行為、精神科診断等のデータの提供を受けた（1198例）。 このうち統合失調症を対象とし、TwoStep クラスタ分析を行った結果では、MTSA-007で行っている一次分析で得られた類型と異なる類型が作成された。特に、一次分析では入手していなかった、隔離歴、拘束歴、クロザピン処方を追加したことにより、これらと重複障害を有する対象者が凝集して一つのクラスターを形成した。一次分析と二次分析の相違には、サンプルサイズの大きさが影響していると考えられる一方で、類型が精緻化された考えられ、引き続き、詳細な分析を行う予定である。			
上記公開に際しての希望： <input checked="" type="checkbox"/> すぐに公開してよい。 <input type="checkbox"/> 年 月以降に公開してよい。 <input type="checkbox"/> その他（)			
研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）： 1) 河野稔明, 小池純子, 竹田康二ほか：静的因子により類型化した医療観察法入院対象者の動的因子による検証—主診断がF2の事例の分析。第19回司法精神医学会, 東京, 2023			

※事務局記入欄

初回申請

2022年11月18日

初回承認

2022年12月16日